

(3)安全管理・事故対応

＜目標＞生徒が安全・安心な環境の下で活動ができるようにするとともに、事故などが発生した場合の現場対応を適切に行う。

©2026 美濃加茂市役所

2 安全対応として

生徒にとって「安全・安心なクラブ活動」は、クラブの存続においては大前提です。

＜本講座で確認したいこと＞

- ①生徒に対する安全・障害予防に関する知識・技能の指導
- ②事故防止
(施設・設備・用具に点検や活動時における安全対策等)
- ③事故が発生した際の現場対応
(応急手当、関係機関への連絡等)

3 ①生徒に対する安全・障害予防に関する知識・技能

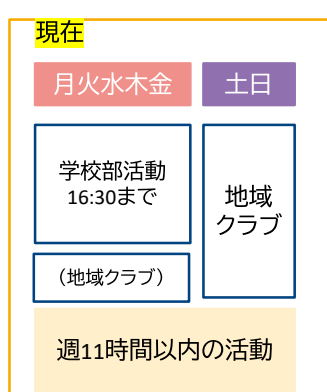
生徒の安全・安心な活動を担保するために

- 生徒の発達段階・健康状態の把握
- 気温や湿度、暑さ指数(WBGT)等の環境への考慮
- 適切な指導内容や活動時間の設定
- 休憩時間、水分補給・塩分補給の機会等の設定
- 施設設備、用具の点検による事故防止の徹底
- 事故が発生した場合の対応

3

4 ①生徒に対する安全・障害予防に関する知識・技能

生徒の健康管理→生徒の取組状況を把握し、**週11時間以内**の活動を仕組むこと



- ・週当たりの活動時間は11時間程度の範囲内
(部活動等の活動時間を含む)
- ・週当たり2日以上の子養日をとること
- <休日>
- ・土日の練習はそれぞれ3時間以内
(大会含め、休日に連続して活動した場合、翌日は休養日)
- ・第3日曜日は「家庭の日」→休養日
- <平日>
- ・1日2時間以内
- <長期休業中>
- ・多様な活動の工夫、ある程度の休養期間(オフシーズン)

※生徒自身もバランスの取れた心身の成長ができるよう健康に対する自己管理への意識を高める指導をする。

4

5 ①生徒に対する安全・障害予防に関する知識・技能

生徒の健康管理→**熱中症**への危機意識を持った指導を行うこと

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。
31℃以上35℃未満	28以上31未満	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28℃以上31℃未満	25以上28未満	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24℃以上28℃未満	21以上25未満	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

大人が経験した暑さとは違う状況

○熱中症計により暑さ指数(WBGT)の測定

- ・WBGT31度以上は運動原則中止
(中学校でも、外活動・体育の授業を中止しています)
- ・WBGTの指数が示す状況に応じて、必要な休憩、水分・塩分補給

※外の活動であっても、屋内の活動であっても、熱中症は起こりうるもの
※生徒の命を守るとともに、ご自身の命も守ってください。

5

6 ①生徒に対する安全・障害予防に関する知識・技能

生徒の健康管理→**熱中症**への危機意識を持った指導を行うこと

WBGTの測定

屋外の活動 ・運動場 ・テニスコート	それぞれのクラブに貸与 →保管し活用 (野球、ソフトボール、サッカー、テニス)
屋内の活動 ・体育館 ・武道場	それぞれの会場に設置し活用 (原則、入って左の壁、扉付近に設置)

- ・WBGT 数値
- ・熱中症注意表示バー
注意→警戒
→厳重警戒→危険



6

7 ①生徒に対する安全・障害予防に関する知識・技能

生徒の安全管理 → 大会、遠征等の移動手段

- ①生徒が自転車で移動 → 事前の安全指導の徹底を
- ②公共の交通機関の利用
- ③保護者による現地集合・現地解散

・貸し切りバス、運転手の手配による移動については、正規の手続きに則っての対応をお願いします。
※保護者の輪番による配車については奨励していません。

7

8 ②事故防止 (施設・設備・用具の点検や活動時における安全対策等)

○活動開始前には通常点検を実施し安全確認する。

<こんな時は要注意>

- ・大雨の後など、環境の変化が想定される場合は要注意。
- ・普段とは違う活動場所では、施設、設備の特徴を把握し、想定される危険についての共有を図る。

○活動終了後は破損、紛失、放置などすることなく、現状復帰を見届ける。

○用具の安全点検

- ・共有する用具については、保管場所、担当など、一定のルールに沿った保管をする。
- ・個人持ちの用具について、生徒に任せきりにせず、保管の仕方・手入れの仕方など指導し見届ける。

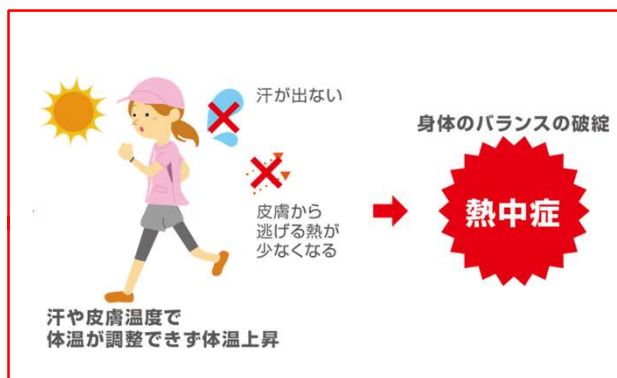
8

9

③事故が発生した際の現場対応

(応急手当、関係機関への連絡等)

熱中症への対応①



程度	症状
軽度	- めまい、たちくらみ - 筋肉痛、筋肉の硬直 - 大量の発汗
中度	頭痛、気分の不快、吐き気、倦怠感、虚脱感、集中力や判断力の低下
重度	意識障がい、けいれん、体を触ると非常に暑い、まっすぐに歩けない

9

10

③事故が発生した際の現場対応

(応急手当、関係機関への連絡等)

熱中症への対応②

程度	症状	具体的対応
軽度	- めまい、たちくらみ - 筋肉痛、筋肉の硬直 - 大量の発汗	- 涼しい場所に移動し体を冷やす - 水分を与える - 誰かの見守りが必要
中度	頭痛、気分の不快、吐き気、倦怠感、虚脱感、集中力や判断力の低下	- 水分、塩分が摂取できれば様子見 改善できなければすぐに病院へ
重度	意識障がい、けいれん、体を触ると非常に暑い、まっすぐに歩けない	すぐに病院へ

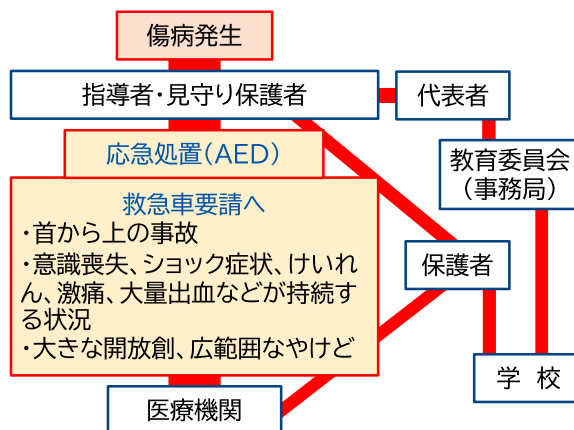
10

11 ③事故が発生した際の現場対応

(応急手当、関係機関への連絡等)

応急処置への対応

学校名	AEDの設置場所
西中	屋外: 体育館西側壁面(予定) 屋内: 職員玄関
東中	屋外: 体育館入口付近 屋内: 職員玄関
双葉中	屋外: 体育館入口付近 屋内: 保健室
その他	会場ごとで、使用前に確認を!

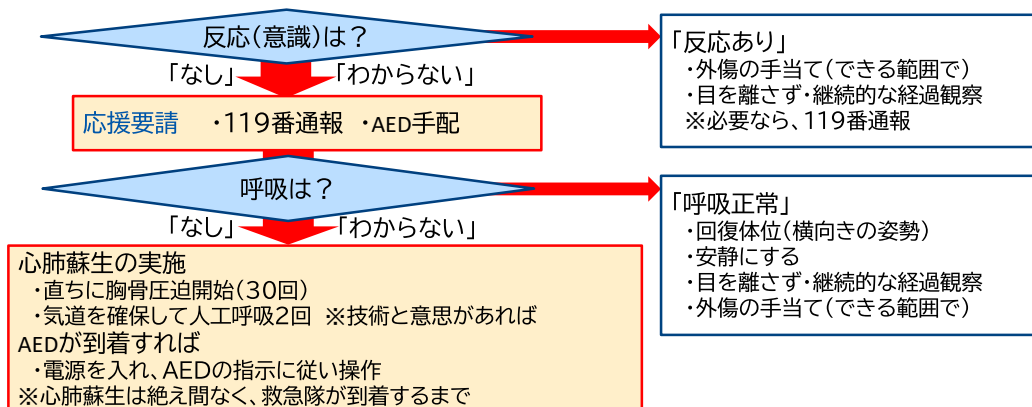


11

12 ③事故が発生した際の現場対応

(応急手当、関係機関への連絡等)

「傷病者発生時における判断・行動チャート」



12

13 このレッスンの重要ポイント

■このレッスンのまとめ

認定地域クラブの指導者として
生徒にとって、**安全・安心**なクラブ活動の実現を

- ☐ 生徒の発達段階・健康状態の把握
- ☐ 気温や湿度、暑さ指数(WBGT)等の環境への考慮
- ☐ 適切な指導内容や活動時間の設定
- ☐ 休憩時間、水分補給・塩分補給の機会等の設定
- ☐ 施設設備、用具の点検による事故防止の徹底
- ☐ 事故が発生した場合の対応